

健康!よぼうかい

Japan Anti-Tuberculosis Association, OSAKA

2012
No.24

September

ホームページ : <http://www.jata-osaka.or.jp>

INDEX

大阪総合健診センター

- P.2 ▶ 優良総合健診施設に
一般社団法人日本総合健診医学会(JHEP)が認定!
- P.3 ▶ 胃内視鏡検査の選択肢が増えました
毎週火曜日午前中経鼻内視鏡検査も行っています
- P.4 ▶ デジタル化に伴い「画像ファイリングシステム」を導入
- P.5 ▶ 大阪病院に来られたマイコプラズマ肺炎の患者さん
- P.6 ▶ 「寝屋川市感染症ネットワーク」立ち上げから14ヶ月経て
インフォメーション

- 複十字シール運動(8月1日~12月31日)、結核予防週間(9月24日~9月30日)
- 大阪ヘルスジャンボリー 2012
- 秋に大阪府内の医療従事者向け結核研修開催



一般社団法人日本総合健診医学会(JHEP)が

大阪総合健診センターを 優良総合健診施設に認定!



平成24年7月19日付で、当センターが、JHEPより、「安心して受診できる人間ドック」の『優良総合健診施設』であると認められました。

これは、健康診断に関わる精度管理において、評価基準成績と、また施設や設備をはじめそれに携わる職員の教育について、その評価基準成績が認められたものです。

今後もより良くを念頭に、より質の高いサービスの提供と、医師による的確な診断・指導で、皆様にご満足いただけるよう努力してまいります。

総合健診は、自動化された検査機器とコンピュータシステムとを接合して行う米国で開発されたドック健診です。昭和45年に自動化健診という名称で日本に紹介され、昭和60年から総合健診と改称されました。日本総合健診医学会の会員施設として学会に所属する総合健診施設のうち、優良施設推薦委員会によって、優良施設基準条件を満たしていることが認められた施設が優良総合健診施設として認定されます。

【日本総合健診医学会】

予防と疾病の早期発見をめざした多項目健診の方法、健康の評価、健康教育、健康予測などに関する研究を行なっています。また、高齢者から若年者にわたるまでの健康維持、健康増進に貢献することを目的としています。

優良施設基準条件



写真①4F専用フロアー



写真②医師の説明と指導



写真③保健師の指導

1. 健診は健診専用フロアーで行う。(写真①)
2. すべてのデータがコンピュータシステムにより継続管理されている。
3. 検査の精度管理が厳重に行われている。
4. 健診当日、医師が個々に結果の説明と生活習慣の改善指導を行っている。(写真②)
5. 健診後もフォローアップが確実に行われている。(写真③)
6. 以上の優良基準を満たしていることが毎年チェックされ、3年ごとにきちんと優良認定の更新が行われている。

●当支部のその他の主な施設認定

日本人間ドック学会施設機能評価認定施設 平成19年2月24日
プライバシーマーク付与認定施設 平成21年2月24日
マンモグラフィ検診施設画像認定施設 平成14年1月1日

日本臨床細胞学会認定施設 平成15年5月
日本医療機能評価機構病院機能評価認定病院 平成18年8月21日

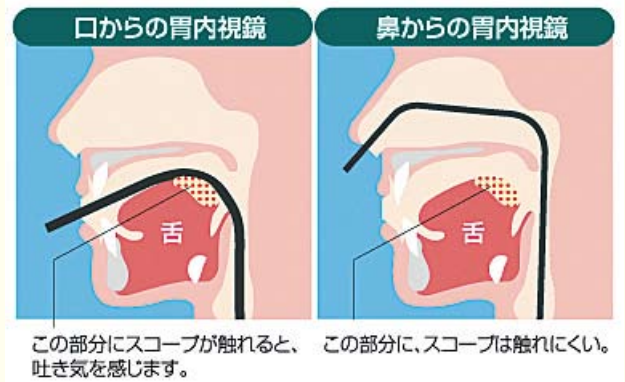
胃内視鏡検査の選択肢が増えました
毎週火曜日午前中 大阪総合健診センターでは
経鼻内視鏡検査も行っています

従来の経口内視鏡検査と違って経鼻内視鏡検査は、かなり時間がかかります。しかし、次のような利点もありますので、胃内視鏡検査の受診の際にはご検討ください。

その1 吐き気が少ない

風邪をひいたときの診察で、舌の奥をへらみたいもので押されて「オエッ」となりそうな経験をしたことがあると思います。これを咽頭反射(いんとうはんしゃ)といいます。口から内視鏡を入れる場合は、多少なりともこうした咽頭反射が起こります。

ところが、鼻から入れる場合は内視鏡が舌の根元に触れないので、ほとんど吐き気をもよおすことなく検査を受けることができます。



その2 検査中に話ができる

口から内視鏡を入れると、口がふさがってしまうために検査中は話できません。しかし、鼻から入れる場合は口を自由に動かさめますので、検査をしている医師と「痛くありませんか?」「はい、大丈夫です」というような会話ができます。気になったことをその場で確認できるので、安心して検査が受けられます。

その3 検査終了後、早く通常生活ができる

検査終了後、約30分から60分で食事ができ、原則として麻酔を使用しないので、車の運転も可能です。

次のような方は、受診できない場合があります(気になる方は、あらかじめお問い合わせください)

- ・薬のアレルギーがある。
- ・耳鼻咽喉科の先生から、鼻が悪いと言われたことがある。
- ・鼻血がよくでる。
- ・血が止まりにくいことがある。
- ・肝臓が悪いと言われたことがある。
- ・血液をサラサラにする薬を飲んでいる。

お申し込み・お問い合わせは 大阪総合健診センター 電話06-6202-6667

注:保険診療では行っておりません。

かわいい、わかりやすい、清潔感があると好評のデジタルマンモグラフィ健診車!



車内のスタッフ

スタッフ14名の女性放射線技師が、マンモグラフィ健診の、施設内・健診車を担当しています。



健診車

車長8.1m、車幅2.49m、車高3.12m

大阪総合健診センターはデジタル化に伴い 「画像ファイリングシステム」を導入

◎デジタル画像を一元管理

当センターでは医用画像を扱う業務(胸部エックス線・消化器内視鏡・超音波(腹部・乳腺・頸動脈など)・眼底・心電図等)をデジタル化しています。これらのデジタル画像を一元管理できる「画像ファイリングシステム」を「医療情報室」で作成し、健診システムに導入しています。

このシステムは当センターのオリジナルであり、健診スタイルに沿ったシステムとして開発しています。

◎過去のデータと比較しながら検査

この画像ファイリングシステムは、過去の受診歴があれば、検査中に過去データ(過去画像や判定所見)との比較をすることができます。実際、腹部超音波検査や乳腺超音波検査等の多くの検査では、過去データとの比較を行いながら検査を実施しています。また、同検査の過去データとの比較だけでなく、例えば、乳腺超音波検査であればマンモグラフィ検査の画像など関連する全ての検査データを実際に検査しながら確認することができ、前回との変化を比較確認し撮影枚数の変更など必要な対応をとることもこのシステムは可能にしています。

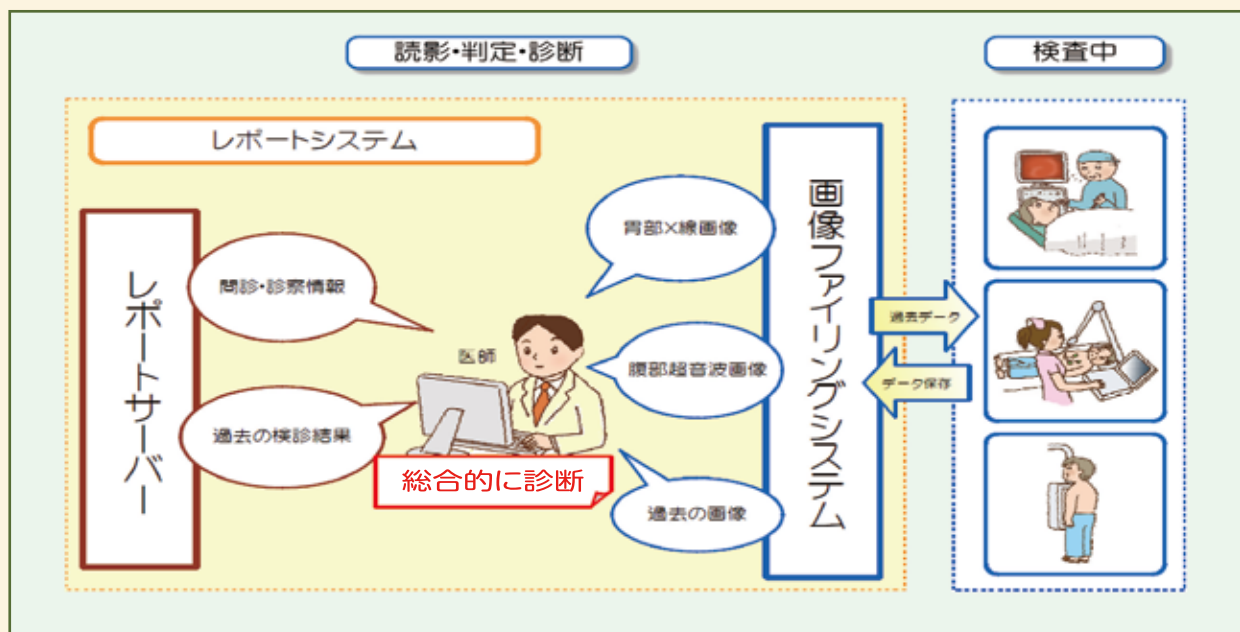
◎いろいろな角度からアプローチ

読影・判定においては、画像ファイリングシステムと問診や過去の結果データを保持し判定をサポートするレポートシステムとが連携されており、1つ1つの検査をバラバラで診断するのでなく、受診者様の身体全体を色々な角度からアプローチできるように、各検査が連動して診断できるシステムになっています。

◎総合的診断

具体的には、医師が読影・判定する際、各エックス線専用画面と各種超音波検査や眼底検査などを表示する画面を並べ、画面操作や診断入力をするタブレットを操作することにより、必要な画像を連動して表示させ診断することができます。

例えば、胃部エックス線を診断する場合、レポートシステムの判定用タブレットを操作すると、エックス線用画面には胃部エックス線、超音波用画面には腹部超音波の画像が連動して表示されます。さらにレポートシステムには、受診者の問診情報や過去の検査結果などが表示されているので、医師はそれらすべての情報を確認したうえで総合的に診断することができます。



(医療情報室は、医師他全職種の計11名で構成しています。)

大阪病院に来られた マイコプラズマ肺炎の患者さん

「2週間前に下の子に咳が続き、お医者さんでもらった抗生物質をのませると数日で良くなったのよ。今度は上の子が同じように咳がでたので、下の子の残っていたお薬をのませても、咳と熱が悪くなって…」とお母さんが子供を連れて来院されました。

そうです、その子は昨年6月より小児を中心に全国で大流行している「マイコプラズマ肺炎」だったのです。

◎「肺炎マイコプラズマ」の正体

マイコプラズマ肺炎の原因菌の「肺炎マイコプラズマ(以下マイコプラズマ)」は、小型(径0.1～0.2 μ m)の細菌で、通常の細菌がもつ細胞壁をもたないため、ペニシリン系抗菌薬などが無効です。くしゃみや唾液(濃厚な飛沫、接触感染)で上気道～下気道に侵入した菌は、通常、線毛上皮細胞の表面を軽く傷害して(気管支炎)、数週間以上続く頑固な咳を起こします。

◎この年齢層に多い!

「マイコプラズマ肺炎」は、幼児や若年成人(特に4歳～10歳)に多く、この年代の市中(町中で感染する)肺炎の2割～6割を占めます。潜伏期間が2～3週間と比較的長く、軽症例では微熱・倦怠感・頭痛のみですが、典型例では38℃台の高熱で発症し、3日目頃から痰の少ない乾いた咳(気管支肺炎)や咽頭炎、中耳炎などを示します。

◎普通の肺炎と発症の仕方が違う!?

マイコプラズマ肺炎は、菌の気管支・肺泡への直接傷害ではなく、菌体を認識した肺の免疫細胞が過剰な免疫調節物質(サイトカイン)を産生し、過剰な免疫反応で肺を傷害して発症します。このため、年長児の方が幼児よりも肺炎を起こしやすく、若年成人では時に呼吸困難を伴う重症肺炎を起こし、重症例では時に致死的な髄膜炎、脳炎、肝炎、多形紅斑などを合併します。

◎診断の決め手は頑固な乾いた咳と2～3週間前の家族内・職場での接触歴!

マイコプラズマは細菌培養検査が困難で、確定診断には、発症時と回復期(数週間後)の2回の採血による抗マイコプラズマ抗体の増加の確認が必要です。このため診察時、①幼児～若年成人、②38℃以上の高熱と頑固な乾いた咳、③2～3週間前の家族内・職場での接触歴(同じ咳の方がいませんでしたか?)と④弱い炎症反応(白血球数が1万/ μ L未満)で積極的に疑い、クラリスロマイシンやアジスロマイシンを開始します。

これらのマクロライド系抗菌薬は、抗菌作用に加えて、免疫細胞による肺炎の誘発や重症化を抑制する作用を併せ持つため、出来るだけ早く開始(重症例ではステロイド薬を併用)し、また再発予防のために10～14日間服用します。

◎しつこくなったマイコプラズマ…早目の受診を!

ところが近年このマクロライド系抗菌薬に耐性のマイコプラズマが増加し、これが今回の肺炎増加につながっています。

治療開始後48時間で解熱しない耐性菌例では、テトラサイクリン系やキノロン系の抗菌薬に変更しますが、小児例では時に副作用のため治療に難渋します。

さらに、マイコプラズマや百日咳(これも成人の慢性咳で流行中です)が気管支喘息や妊婦の方など(ハイリスク者)に感染すると、時に重症肺炎や重篤な合併症を起こします。このため、「頑固な乾いた咳と、同じ咳の方との2～3週間前の接触歴があり、特に家族にハイリスク者がおられる方」には、早めの受診をお勧めします。

大阪病院より発信「寝屋川市感染症ネットワーク」立ち上げから14ヶ月経て

平成23年6月、一般社団法人寝屋川市病院協会に参加する全13病院に呼びかけ、「寝屋川市感染症ネットワーク」を立ち上げました。寝屋川市を中心とした地域に、良質の感染症治療を提供できる組織を目指しています。

事業として、地域での感染症対象細菌の動静を把握することから始め、全施設共通の感染症対策マニュアルの作成や病院職員の知識・技術の向上を目的に、HIVや結核に対する研修会を開催しています。さらにHIV初期治療体制の

構築や、感染管理に必要な物品の共同購入も始めています。

会議に参加したり、メールのやり取りを行うことで、お互いの距離が近くなり、結核を初めとした感染症症例に関する相談がし易くなったとの声や、細菌検査室への薬剤感受性検査に関する希望などが届けられています。今後は、寝屋川市医師会や寝屋川保健所と協働し、住民の健康生活の維持に貢献していきたいと考えています。

インフォメーション

1. 複十字シール運動(8月1日～12月31日)、結核予防週間(9月24日～9月30日) 目的は一つ 結核のない明日をつくるために

我が国の結核の現状は、年間2万3千人の新規患者が発生し、約2000人が亡くなっています。結核予防週間を契機に、大阪府支部は結核の正しい知識の普及広報活動と、その運動を支える複十字シール募金運動を、またその他呼吸器疾患に関する取り組みを下記の要領で行っています。

○結核予防週間9月24日(土)～30日(金)

24日(月) 結核予防推進大会(大阪エフボランタリーネットワークとの共催)・高槻市立生涯学習センター 2階多目的ホール
肺年齢測定体験会・高槻市立生涯学習センター 2階ホワイエ(多目的ホール前)

26日(水) 全国一斉複十字シール募金運動街頭キャンペーン(大阪市地域女性団体協議会との共催)・大丸心斎橋店前(大阪市中央区)

○大阪府支部施設内外で啓発グッズ(エコバッグ・啓発ティッシュ・うちわ等)を配布

・施設内 8月1日(水)より
・施設外 8月1日(水)、22日(水)、9月5日(水)に支部前で
・ホームページ 8月17日(金)より「結核予防週間」の周知をしております。

○大阪府・市へ表敬訪問を行い、複十字シール運動への協力をお願いしました

8月1日、総山大阪府副知事と林大阪市健康局長を訪問しました。府には社団法人大阪エフボランタリーネットワークも同席しました。副知事は、「大阪の結核の現状を改善するためにみんなで協力しあっていく」、そして大阪市健康局長は、「市の実情を踏まえ結核を減らすには予防会にも協力を得て取り組む」とのお言葉をいただきました。また堺高島屋内診療所では、8月3日に堺市を訪問しました。

2. 大阪ヘルスジャンボリー2012

大阪市の結核対策事業に賛同し、10月20日(土)長居公園で開催されるこの催しに、今年も協賛で参加します。このイベントでは、胸部エックス線検査の無料健診を始め、パネル展示やパンフレット・記念グッズなどを配布し、結核・COPDなどの呼吸器疾患の啓発広報活動も積極的に行います。

3. 秋に大阪府内の医療従事者向け結核研修開催

平成24年度大阪府結核研修 主催：大阪府、当支部

第1回 11月8日(木)午後1時～4時 「エル・おおさか」(大阪市) 定員800名

第2回 11月30日(金)午後1時～5時 「サンスクエア堺」(堺市) 定員400名

○表紙【幼児からクラシックに馴染もう】秋になると今年も7年目を迎えた『大阪クラシック』の音楽祭典が始まりました。9月2日(日)から8日(土)まで、御堂筋沿いと中之島を中心に26会場で、90の演奏会が開かれました。表紙の会場は7日(金)に、当センターからすぐ東の御堂筋から南へ1.5kmほど先の、御堂筋に面した「オカムラ大阪ショールーム」で、子供連れ優先の催しでした。

集団健診予約はこちらをご利用ください。

大阪総合健診センター 直通電話番号 06-6202-6667

財団法人結核予防会大阪府支部

支部 / 大阪総合健診センター 相談診療所

〒541-0045

大阪市中央区道修町4-6-5

TEL : 06-6202-6666(代表)

FAX : 06-6202-6686

URL : <http://www.jata-osaka.or.jp>

E-mail : info@jata-osaka.or.jp

大阪病院・大阪総合健診センター寝屋川

〒572-0854

寝屋川市寝屋川公園2276-1

TEL : 072-821-4781(代表)

FAX : 072-824-2312

URL : <http://osaka-hospital.jp>

堺高島屋内診療所

〒590-0028

堺市堺区三国ヶ丘御幸通59
高島屋堺店内5F

TEL : 072-221-5515(代表)

FAX : 072-223-8534

URL : <http://www.jata-osaka.or.jp/sakai/>

E-mail : sakai@jata-osaka.or.jp

平成24年9月 発行 結核予防会大阪府支部

結核予防会はみなさんの健康を守ることで社会に奉仕するよう努めます